

卷頭特集 Special Feature

## 祝! 梶田隆章先生 ノーベル物理学賞受賞

.....01



ラボ探訪 -Welcome to my laboratory-	人文社会科学研究科
草野 大希 准教授	.....05
大学院理工学研究科	
柿崎 浩一 准教授	.....06
特色ある授業	
図書館新棟オープン!	.....07
基盤科目 政治と出会う・社会と出会う3	
細井 優子 准教授	.....08
クローズアップ	
政策提言	
- 知事と学生の意見交換会 -	.....09



### 埼大流 国際交流推進活動

Global Café at Saidai .....10

### 日本で、世界で 活躍する埼大生!

卒業生紹介

活躍する卒業生からのメッセージ  
洋画家 岩井 綾女さん .....13

サークル紹介 -PASSION- .....14  
落語研究会



卷頭特集 Special Feature

# 祝！梶田隆章先生 ノーベル物理学賞受賞

「ニュートリノ振動の初観測」により、  
2015年ノーベル物理学賞受賞

私たちの身体、動物、植物、水、自動車など、地球上にあるあらゆるものは小さな原子からつくられています。たとえば水は水素と酸素という原子が結びついてできています。その原子を構成するもっと小さな粒子を素粒子と呼びます。あらゆる物質の最小単位が素粒子、ニュートリノはその素粒子の仲間のひとつです。

ニュートリノは、それ自体に質量がないといわれていました。しかし、梶田さんは『スバーカミオカンデ』での実験により、ニュートリノにはわずかながら質量があり、姿を変えること（ニュートリノ振動）を世界で初めて発見しました。

梶田 隆章 Kajita Takaaki

【略歴】

埼玉県東松山市出身  
1981年 埼玉大学理学部物理学科卒業  
1986年 東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了

現職は東京大学宇宙線研究所所長・教授  
埼玉大学卒業後、東京大学大学院で小柴昌俊先生（2002年ノーベル物理学賞受賞）、戸塚洋二先生の指導のもと、カミオカンデ実験にあたる。その後、宇宙線研究所助教授などを歴任し、1998年大気ニュートリノを観測することで、ニュートリノに質量があることを提唱し、2015年ノーベル物理学賞を受賞。



【学長メッセージ】

本年のノーベル物理学賞を梶田隆章氏が、その優れた業績により、受賞されましたことに心から敬意を表します。  
埼玉大学は、時代を越えた大学の機能である知を継承・発展させ、新しい価値を創造することを基本的な使命とし、学術研究の拠点として存在感のある総合大学を目指しています。本学理学部の卒業生であり、在学中は弓道部で活躍され、文武両道を果たされた梶田氏のノーベル賞受賞は、本学学生、卒業生および教職員の大きな励みとなるとともに、大変喜ばしく思います。  
この受賞を契機に、埼玉大学としても、学術研究の推進と人材育成機能の強化により一層まい進する所存です。

平成27年10月6日 埼玉大学長 山口宏樹



## Memorial Interview

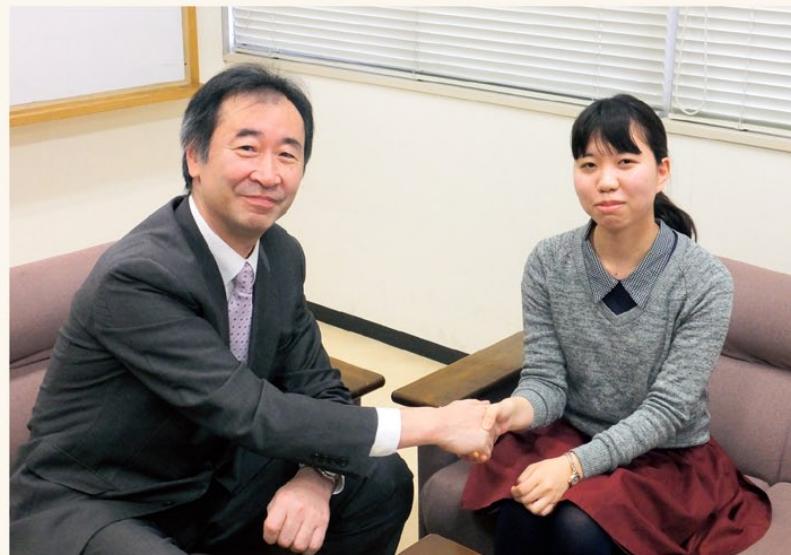
# 梶田 隆章 先生



## 星野 志穂里 さん

埼玉大学大学院理工学研究科物理機能系専攻博士前期課程1年

2015年10月31日、埼玉大学ホームカミングデーに梶田先生がサプライズゲストとして訪れた際、学生のインタビューに答えていただきました。



**星野** このたびはノーベル賞受賞おめでとうございます。埼玉大学の後輩としてインタビューの機会をいただき、たいへんうれしく思っています。よろしくお願ひします。

**梶田隆章先生(以下、梶田)** どうもありがとうございます。よろしくお願ひします。

### 周囲の批評は気にせず、自分を信じて実験データの解析に努める。

**星野** まず、先日ノーベル賞受賞の知らせを聞いたときの心境はいかがでしたか。

**梶田** 正直、足が震えるくらいびっくりしました。

**星野** 梶田先生やまわりの人がノーベル賞受賞を意識するようになったのはいつ頃ですか。

**梶田** マスコミは意識しているような雰囲気はありませんでしたね。毎年10月になると来て、話を聞いていく人はいました。まわりがノーベル賞をどのくらい意識していたのかはわからない。自分を含め、あまり意識していなかつたですよ。

**星野** 受賞前と後で生活が変わったことはありますか。

**梶田** 大きく変わってしまいましたね。とにかく取材の連続で、いまは何も仕事ができません。

**星野** 研究生活のなかで、ノーベル賞受賞はどういう位置づけになりましたか。

**梶田** 研究成果を認めもらったということです。

**星野** ニュートリノ振動発見当時は、大気ニュートリノ振動はあまり受け入れられなかつたと聞いていますが、そのときはどのように思われましたか。

**梶田** たぶん98年、国際会議での発表の頃は大方の人は認めてくれていたと思います。最初にそれにつながる大気ニュートリノのうちのミュニュートリノが予想よりも少ないことを言い出した頃は、大方の人は間違いだらうと考えていたのだと思う。でも、そうは言ひながらも自分たちは、論文にする前に1年以上かけて、いろいろと確認作業をやったので、まあ大間違いはないだらうと。ですから、あまり周りの視線は気にならなかつたですね。

**星野** いまミュニュートリノが減っているとおっしゃいましたが、減っていると確信したのはいつ頃ですか。

**梶田** 減っていると確信したのは、87年の秋ごろかな。それまで1年ぐらゐ細かいことを延々と確認てきて、もうやることないや、と思ったあたりです。

**星野** 減っている理由としていろいろなことを考えられてきたと思われますが、それがニュートリノ振動だと考えたのはいつですか。

**梶田** 最初からニュートリノ振動は一番もつともらしい可能性のひとつだとは思っていたけれども、ニュートリノ振動だと確信が持てたのは、やっぱり1997年から98年の前半あたりかな。

**星野** 振動発見までにどのような困難がありましたか。

**梶田** そんなにものすごい困難は実はなかつたと思っているのですけれど、大変だったのはコンピューターの能力がいまよりも随分低かったことと、それとともに、ソフトウェアがいまよりも随分未発達な部分があつて、ニュートリノイベント、1イベント1イベントについてどこにチェレンコフのリングがあるのかという情報を、だいたいの情報でいいのですけれども、見て、人がスキャンをして入れてあげるのをやっていて、それの約10倍のモンテカルロをやる、こっちのほうが大変でした。

**星野** スキャンというのはアイスキャンという電子ニュートリノとミュニュートリノからくる電子とミューオンの信号ですか。その区別は当時どれくらいたきましたか。

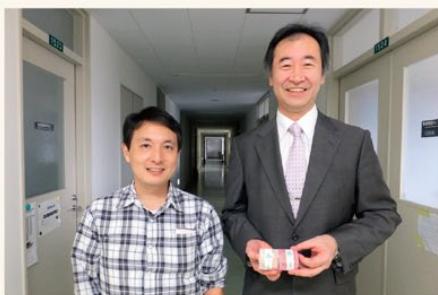
**梶田** 目で？

**星野** はい、成功率はどのくらいでしたか。

**梶田** 覚えてないけれども、95%くらいは目で大丈夫だったと思う。

**星野** いま私は映像や図を見ても電子のイベントとミューオンのイベントとの区別が全然わからないのですが、それはどういうふうに判断するのでしょうか。

**梶田** 原理は簡単で、電子は水中でエレクトロンマグネティックシャワーを起こすので、したがつて電子の1個1個の質量は小さいので、マルチブルスキヤッターリングが大きい、そうするとスキャッターされた方



(左)大学院理工学研究科物質科学部門 佐藤丈准教授



学生が学内各所を案内しました



梶田先生の研究内容紹介パネル(大学図書館に展示中)



弓道部を訪問



後輩達との記念撮影

向にチェレンコフを出すので全体がほんやりする。ミューオンは基本的にエネルギーを失いながらまっすぐ進むのでリングの内側と外側がはつきりする。これで区別できます。

### 基礎科学の研究は、人類共通の「知の地平線を切り拓く」。

**星野** ニュートリノは何かの役に立ちますか、と質問されたときに、「知の地平線を切り拓く」という言葉がありましたら、これは梶田先生のオリジナルなのでしょうか。

**梶田** やはり、違います。(笑) 出典はどこかわかりませんが、どこかで聞いた言葉ですね。

**星野** いつごろからこの言葉を使ったのですか。

**梶田** ちょうど10月6日じゃないかな。(笑)

**星野** 今後、私たち自然科学を学ぶ者が、研究の意義を聞かれたときにどのように答えばいいと思いますか。

**梶田** それはもう同じですね。基礎科学の研究というのは人類共通の知の地平線を切り拓くものなので、それは人類として重要な、というふうに言うべきだと思います。

**星野** これまで研究てきて失敗したなと思うことはありますか。またその失敗から得た教訓は何かありますか。

**梶田** 失敗はいくらもあるだろうけど、それで教訓…まあ、失敗しても仕方ないと。いっぱい失敗していると、それはそれでいいと思えてくる。

**星野** では、逆に成功したと思うことは何ですか。

**梶田** 大気ニュートリノ以外に成功したものはないので、それだけですね。

**星野** 今後ですが、いまKAGRAで重力波検出実験をやっておられますか、それにあたっての決意などありましたら教えていただけますか。

**梶田** KAGRA実験は欧米の同じような重力波の干渉計と協力して重力波天文学というまったく新しい天文学を切り拓こうとしていますので、ぜひ期待していただきたい。

**星野** 直接検証に成功したら、物理学はどのように発展していくと思いますか。

**梶田** 物理学的な発展では、一般相対性理論の適応限界がもの凄く強い重力下でも成り立っているのかどうかがわかる、ということですね。それ以外は天文学的な話が多くなってくると思います。他にはどのくらいの質量まで中性子星があるのかがわかると思います。中性子星の状態方程式とか、そういうところにも影響は出てくると思います。

### 研究者の自立は、自分の新しい研究の種を見つけること。

**星野** 受賞後に恩師の小柴昌俊先生とはお話をされましたか。

**梶田** 単に受賞が決まりました、という報告をしただけです。

**星野** 小柴先生から学んだことで、一番印象に残っていることはどのようなことですか。

**梶田** 二つあって、ひとつは常に研究の卵を持っていろということ。もうひとつは我々の研究は国民の血税で成り立っているので、決して研究費を無駄にするな、と。それで企業の言い値でのものを買うなど(笑)。さらには、国民のみなさんに感謝をもって研究しないといけないということです。

**星野** 研究の卵とはどういう意味ですか。

**梶田** つまり、大学院生は指導教員の指導のもとで研究をしていくけれどもだんだん自立していくわけで、そうなったら自分の新しい研究の種をもってちゃんとそれをやりなさいということです。

**星野** もう一人の恩師の戸塚洋二先生がいらっしゃいますが、戸塚先生から学んだことは何かありますか。

**梶田** 危機に瀕したときの対処の仕方。

**星野** その対処の仕方というものは活かされましたか。

**梶田** やはり、真似ができるとは思いませんけれども、勉強になりました。

### 埼大では弓道に打ち込んだ日々。

**星野** 次に梶田先生の日々の生活面についてお伺いします。

毎日お忙しい生活だけは思いますが、体調管理についてはどのように気をつけていらっしゃいますか。

**梶田** 平日は何もなければ酒を飲まない。(笑)

**星野** 休日はお飲みになるのですか。

**梶田** 休日は、飲みます。

**星野** 趣味や、ハマっているものはありますか。

**梶田** 趣味は、ないです。休日はゆっくり寝ています。(笑)

**星野** 弓道をされていましたが、他にもテレビなどで観戦するスポーツはありますか。

**梶田** とくにいまはないですね。

**星野** テレビはあまり観ないのですか。

**梶田** テレビはね、そうあまり観ないけど、平日は朝晩、朝行くまでと夜寝るまでは一応ニュースはつけていますね。

**星野** ご自分のニュースはいかがですか。

**梶田** それはほとんど観ていないですね。(笑)

**星野** では、梶田先生の埼玉大学での生活についてお伺いします。まず、埼玉大学に入ったきっかけを教えていただけますか。

**梶田** 地元の大学だったからですね。

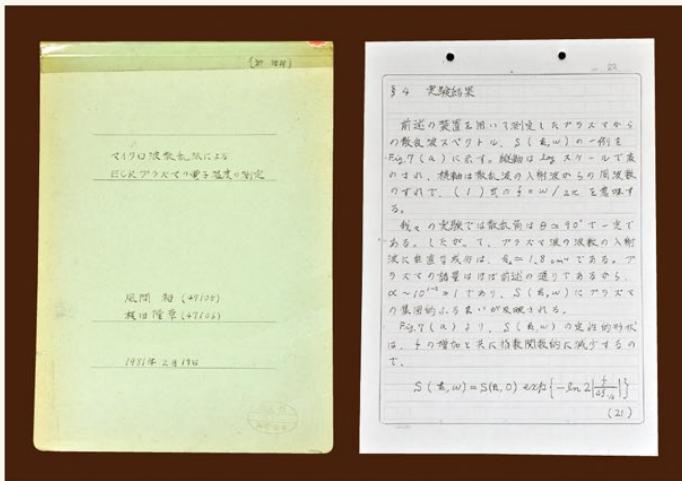
**星野** 物理学科を選んだ理由は。

**梶田** そのへんがあまり定かではないのですが、一応いくつか受けようとしたときに、よくわからないけど最終的に物理にしようと。その程度の話です。

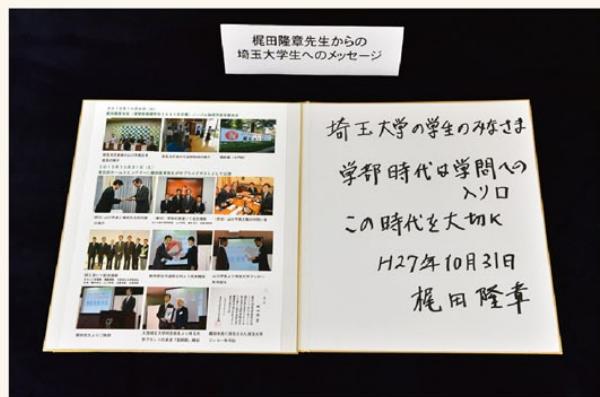
**星野** それは小さい頃に鉄腕アトムになりたいという話がありましたか、その頃から科学に対して興味があったと。

**梶田** 小さい頃から科学に対して興味はありましたね。鉄腕アトムについてはよくわからないけれども。(笑)

**星野** 小中高での将来の夢というの。



梶田先生の卒業論文(大学図書館に展示中)



埼玉大学生へのメッセージ(大学図書館に展示中)

**梶田** 日替わりだったのでとくに…、何かいろいろありましたね。

**星野** それはいまの研究者とも違う職業も。

**梶田** もちろんありました。

**星野** 大学当時、弓道をやられましたか、それ以外に趣味などはありましたか。

**梶田** いや、当時は弓道に打ち込んでいたのでそれ以外はまったく見向きもしなかった。

**星野** なぜ弓道部だったのですか。

**梶田** 高校に入った頃は背が小さくてやせていたので、なかなか体力や足の速さ勝負だと勝てないと思って、自分でもできそうなものにしました。

**星野** 弓道と物理で何か結びつくことはありますか。

**梶田** いやあ、それはとくにないと思いますよ。

**星野** 埼玉大学前の道(埼大通り)を通ったと思うのですが、何か変わったところはありますか。

**梶田** 道の左右にいっぱいいろんなものができましたね。

**星野** 昔は何もなかったのですか。

**梶田** うん、少なかった。

**星野** 埼玉大学にいた頃、学食は利用していましたか。

**梶田** よく利用していました。

**星野** 好きだったメニューはありますか。

**梶田** 難しいな。何か揚げ物が多く印象はあるのだけれども、それが好きだったかどうか。

**星野** 埼玉大学の良かったところと、良くなかつたところを教えて下さい。

**梶田** 良かったところは、たぶん昔の大学の良かったところになると思うけれども、ほとんど野放しだったところ。良くないところは、いまの埼玉大学は木がいっぱい立っているけれども、昔の埼玉大学は、荒野に団地がたっているような…(笑)

**星野** 良かったところで野放しだったところと

おっしゃいましたが、いまの埼玉大学では授業一コマあたり4時間予習復習することになっているのですが、当時もそのシステムだったらどうですか。

**梶田** いや、たぶん昔からそういう定義になっていたのでしょうか。

**星野** 梶田先生はその定義は満たされていましたか。

**梶田** 不可能です。(笑)

**星野** 成績はどうでしたか。

**梶田** 正直な話悪くはなかったと思うけれども、でも全員が優をもらっていたなかの一人だったのかもしれないで全然わかりません。

### 学部時代は学問への入り口、その時代を大切に。

**星野** 学生のうちにしかできないことは何だと思いますか。

**梶田** 学部生はやりたいことを思いつきりやる、ということじゃないでしょうか。

**星野** 梶田先生の学部生時代はやりたいことを思いつきりやっておられましたか。

**梶田** やりました。

**星野** 大学院に進学した理由は何でしょうか。就職という選択肢はなかったのですか。

**梶田** 物理の魅力に惹かれて、もうちょっと理解したいと思ったからですね。

**星野** 研究室を選ぶ際に小柴先生の研究室を選んだわけですが、それはなぜですか。

**梶田** 当時は素粒子の実験をやりたいと漠然と思っていたけれども当時はインターネットもなくてそれぞれの研究室が何をやっているかわからない。募集要項に「小柴研究室、電子陽電子衝突実験を行う」と書いてあって、よくわかんないけれども直感で選んだ。

**星野** 大学院入試を受けたところ、あまりできなかったと新聞等で拝見しました。真偽のほどは。

**梶田** 本当にできなかつたのですけれども、小柴先生ができないなかから拾ってくださったのだと思います。

**星野** 博士後期課程に進学すると決めたのはいつ頃ですか。

**梶田** なんとなく、修士の2年の頃には行くつもりになっていました。ちょうどその頃カミオカンデの準備が本格的になって、博士課程に進んで初めてカミオカンデのデータが出てくる段階だったので行かないという選択肢は考えられなかつたですね。

**星野** 博士後期の先、研究員になると決めたのはいつですか。

**梶田** それも、ドクター3年の頃だったと思います。カミオカンデが面白かったのと、確かにその頃にはすでにカミオカンデを改造することが始まつていて、新しいフェイズになるのがわかっていて、またこれも続けない手はないなど。

**星野** どのような学生が研究者に向いていますか。

**梶田** 研究することが好きな学生でしょうね。いろんなことに興味をもっている学生かなと思います。

**星野** 最後に、埼玉大学で学んでいる学生に対して、何かアドバイスをお願いします。

**梶田** 学部時代というのは学問への入り口だと思いますので、その時代を大切にしてください。

**星野** 本日はありがとうございました。





# 教養学部 グローバル・ガバナンス専修／国際政治学

## Welcome to my laboratory



**草野 大希 Hiroki Kusano**

人文社会科学研究科 准教授

○経歴

1996年 上智大学文学部新聞学科卒業  
2000年 上智大学大学院 博士前期 外国語学研究科国際関係論専攻修了  
2005年 上智大学大学院 博士後期 外国語学研究科国際関係論専攻学位取得満期退学  
2007年 上智大学大学院より博士号(国際関係論)取得  
埼玉大学教養学部助教  
2009年 埼玉大学教養学部准教授  
2013~ 米国コロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所客員研究員  
14年



### 国際報道ジャーナリスト志望から、国際政治研究者へ。

小学生のころから漠然と報道関係の仕事に就きたいと思っていました。放送委員を務めたり、ひとりで学級新聞をつくったり。その想いは高校時代も持続していましたが、ちょうどそのころ1989年東西ドイツ統合や91年ソ連崩壊といった激動の国際情勢に直面し、国際報道をやりたいという気持ちちはますます高まっていきました。大学も新聞学科に進み、着々とジャーナリストになる道を歩んでいました。

大学院進学に際しても研究者になることなど頭の片隅にもありませんでした。ところが、「複雑システム理論」

に基づく国際法社会学を提唱した廣瀬先生の指導の下で国際政治を研究するうちに、学問として国際関係を解き明かす面白さに目覚めてしまったわけです。国際関係の日々の現実を報道するのではなく、なぜその現象がいまそこにあるのか、過去にまでさかのぼり様々な事象を理論的に分析し、大局的な観点から現在を確認する研究者になろうと方向転換しました。

### 介入目的の正当性は、その時代の国際情勢で常に変わる。

研究対象は「アメリカの介入政策」に絞りました。当時(米ソ冷戦終結後の1990年代)のアメリカは、良く

### 国際社会の在り方を、介入政策の歴史からひも解く。

も悪くも「世界の警察」を自認し、内戦下にあったボスニアやコソボ、ソマリアなどの世界中の紛争に「解決の主体」として積極的に介入していました。そもそも国際社会には、他国の国内問題には干渉しないという内政不干渉原則があり、国連憲章下では武力を用いた介入も禁止されてきました。しかし冷戦後の国際社会では、人権を尊重する価値観が広がり、内戦で苦しむ人々の人権を守るために武力行使(人道的介入)は許されるというロジックが台頭したのです。時代の変遷とともに介入目的の正当性も変化してゆく。これは面白いと思い、介入の研究に着手しました。

私が注目したのは、現代ではなく過去のアメリカの介入です。アメリカ介入主義の歴史は古く、既に19世紀末から20世紀初めにかけて、中米カリブ諸国に繰り返し介入する時代がありました。一般的に、この時期のアメリカの介入は、大国が小国を独善的に支配する典型例などと否定的に捉えられています。事実、アメリカはこの地域の国々に介入することで、自国の投資保護や戦略上の利益を確保しました。しかし事例を詳しく検証すると、アメリカの介入により、相手国の治安維持や財政再建が図られ、相手国の独立を支えるというプラス面があったことも分かります。現代でも、破綻国家を誰が救うのかという問題は世界共通の关心事ですが、当時のアメリカは米州地域でそれと同じ役割を果たしていたとも言えるわけです。しかも興味深いことに、百年前のアメリカも、介入の正当性や合法性にとても気を使っていました。なお、私の研究の学問的な意義は、こうした介入の複雑な特性を複雑システムの理論枠組みで明確にしたところに求められます。

アメリカの20世紀前半における介入政策の研究は完結していますが、今後は19世紀歐州のウィーン体制下での介入、冷戦期から現代までの国際社会の介入など、より多くの事例を検証し、国際社会の展開と介入政策の変遷をマクロにつかむ研究を完成させたいです。課題は尽きませんね。



### 多面的な観点で複雑な世界を見据えることが大切

自分が一番関心のある問題だけではなく、周辺の様々な事象に好奇心をもって知ろうとする姿勢が必要だと思います。とくにグローバル化が激しい現代の世界では、一見すると無関係に思える別々の出来事が根底では繋がっている場合が多いのです。また、異なる文化や価値観をもつ人々との接触が増えている現代世界では、多文化理解や共生も重要なになります。大学では、一方的ではない多面的な視点で物事を分析するくせをつけて欲しいですね。

### グローバル志向が強い埼大生の集合

教養学部のグローバル・ガバナンス専修には、国際関係とか国際開発、途上国への支援などに关心のある学生が集まっています。みなグローバルな社会で活躍したい高いモチベーションをもっています。留学への指向性も強いですね。実際いまのゼミ生の3割に留学経験があります。ゼミで使う教科書も英語なので、国際関係をはじめ勉強したい学生には最適な環境だと思います。

### 首相の行動分析による、東アジアの安全保障研究

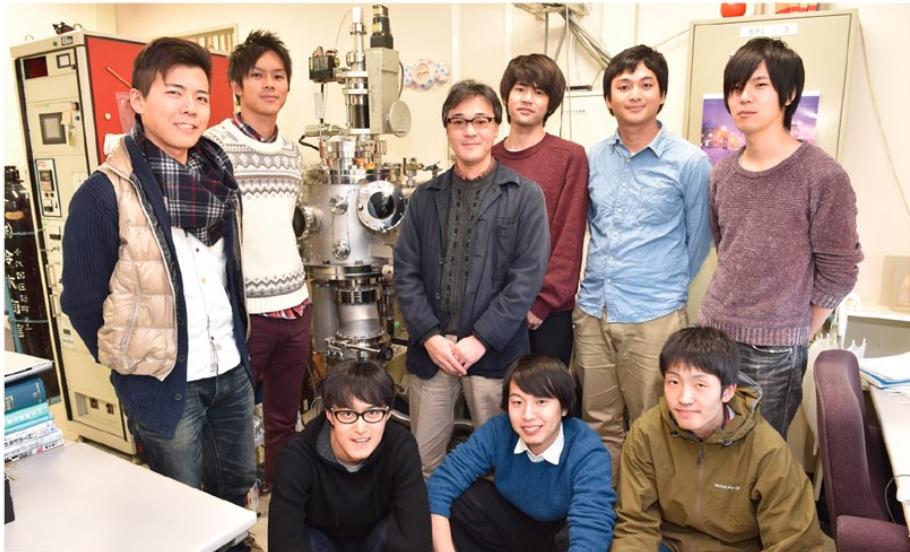
研究の主な対象はアメリカ外交ですが、数年前にフルブライト奨学生を得て米国コロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所に赴任していた関係で、東アジアの安全保障の研究も並行して行っています。とくに、日本の首相による靖国神社参拝などの「歴史問題」をめぐる行動に着目し、そこに含まれる対外的シグナリングの側面を安全保障論の観点から分析しています。日中関係が必ずしもよくないなか、なぜそういう行動をとるのか、そこにどんな意味が含まれているのかを考察する研究です。埼大には中国を含むアジアからの留学生もいるので、学生と一緒に東アジアの将来についても考えてゆきたいです。



# 工学部／磁性材料工学

## Welcome to my laboratory

ラボ探訪



柿崎 浩一 Koichi Kakizaki

大学院理工学研究科 物質科学部門 物質機能領域 准教授

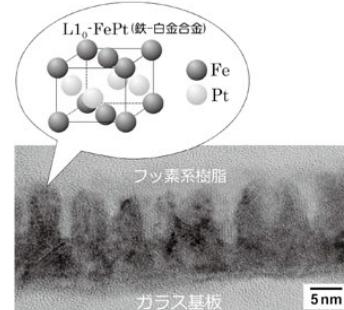
○経歴  
1992年 埼玉大学 工学部電子工学科卒業  
1994年 埼玉大学大学院理工学研究科 電子工学専攻  
博士後期学位取得中退  
埼玉大学工学部 機能材料工学科助手を経て  
2006年～ 現職  
○所属学会 日本磁気学会 粉体粉末冶金協会 電気学会

### 見えない磁石の磁力に引っ張られ、 磁性材料の研究者に。

現在、コンピュータなどの磁気記録メディア(HDD: ハードディスクドライブ)に使われる磁性材料の研究開発を行っていますが、この道に進んだのは、ほんの小さなころの偶然がきっかけになっています。

理科の実験か何かで使っていた磁石を間違って落として割ってしまったのです。すると磁石は絶対に元のひとつのかたまりには戻らないのです。割れた片方の面の磁極(N極とS極)が反対になり、反発してしまう。理論的なことは分かりませんでしたが、見えない力の不思議さに非常に惹かれたことを覚えています。

大学は磁性材料を研究したいという気持ちから、当時、酸化物の磁性材料の研究で実績の高い埼玉大学



に決め打ちでした。

最初のテーマは音声記録用のカセットテープの磁性体です。そこからメディアは磁気テープからハードディスクに代わり、酸化物は金属などに替えと少しづつですが発展させてきました。ただひとつ、いまもこれからも変わらないのは「体積はより小さく、記憶容量はより大きく」の命題ですね。

### 10の何十乗もある組み合わせの なかから最適を見つけ出す。

いま私たちの生活に欠かせなくなっているスマートフォンやパソコンなどさまざまなデジタル機器。その

### 「体積はより小さく、記憶容量はより大きく」への挑戦。

なかにはデータを記録・保存しておくHDDが内蔵されています。そのHDDのなかには長さ10ナノメートル(10万分の1mm)ほどの棒磁石がビッシリと埋まっていて、その一つひとつにデジタルデータ(0と1)に置き換わった情報が記録されていく仕組みになっています。

つまりHDDのなかの磁石(磁性体)が多くれば多いほど記録できるデータ量を大きくできるわけです。しかし、HDDのディスク体積は決まっていて、入れ物を大きくすることはできません。私たちの研究は、磁性体の特性を改善して記録密度を上げ、1枚のディスクにより多くのデータを書き込めるようにすることです。

磁石を小さくすれば同じ面積のなかに磁石はより多くなります。しかし小さくするのは限界があり、あまり小さくすると磁気エネルギーが弱くなり磁石として機能しなくなってしまいます。これではデータを記録できません。ならば磁気の強い磁石を使えばどうかというと、こんどは強い磁気に周りの磁石が引っ張られて、データが変わってしまう問題が発生しました。それではと、磁石の間隔を空けると結局磁力が弱まって磁石の機能が失われる結果に戻る。HDD性能向上のトレンマ(ジレンマよりもひとつ多い)といわれ、研究者やメーカーは頭を痛めています。

そこで私たちは磁石一つひとつを非磁性材の物質で囲い、磁石の間隔を調整することで周りにおよぼす影響を除去する方法を試みました。この方法は他大学の研究室でも行われていますが、私たちの特長は非磁性材にフッ素系樹脂を使うことです。この樹脂と鉄白金合金の磁石をプラズマ重合反応によって基板ディスクに付着させていきます。大きな可能性を期待されるこの方法も、重合反応の温度、圧力、樹脂の量などまだ確立されていません。10の何十乗もある組み合わせのなかから最適を見つけ出す。気の遠くなるような話ですが、やりがいもその分大きいですね。

### 工学部機能材料工学科棟、 不夜城伝説

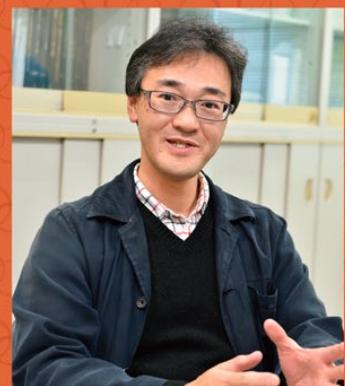
工学部は1学年の学生数が少ないので、ひとつの研究室に10数人という、研究に取り組むには理想的なサイズになっています。一人の関わる範囲が広くなり、いろいろなことができるし、教員の目が行き届くので的確なフォローが可能で、自由な雰囲気で、やりたいと思うことは率先してやらせてもらえる環境があります。各々のベースを尊重するので私の研究室は一番運くまで電気がついているという伝説がありますね。

### 最新実験装置は 使い倒して慣れるしかない

研究室に入ると、真空プロセス装置などこれまで見たこともないような装置を扱います。興味はあるけれど最初のうちはビビって誰も触らない。非常に高価なものでし壊したらどうしようと。工学部は発想して手を動かして実験することで何か有用なものを生み出しそうですから、腰せず、取り合いくらいに使ってほしいですね。たとえ壊したとしても育てるための教育費の一環だと思っていますから。

### 学生の成長を見るのも やりがい

例えば薄膜の磁気的な特性をあげるために、さまざまな材質の組み合わせを学生にも手伝ってもらい実験を繰り返します。発想の限界というか必ず壁に当たるのですが、最初は私からこれを試したらどうぞと導いていきますが、1年もすると自分から発想して次のステップに進めるようになります。研究成果もうれしいけれど、学生が育っている実感を得られることがやりがいのひとつになっています。





Close Up 01

# 図書館新棟オープン!

待ちに待った埼玉大学図書館新棟(ラーニングコモンズ)が2015年11月5日にオープンしました。本・資料を探す、借りる、読むといった図書館本来の役割に新たな機能が加わった、図書館新棟の魅力を、「埼玉大学マスコットキャラクター」メリンちゃんが紹介します。



正面エントランス



Now we go!

## 1階



### ラウンジ

テーブル、椅子、ソファをゆったりと配置した、座席数60席のラウンジです。飲料自動販売機2台が設置され、飲食もできるスペースになっています。



### 新聞コーナー

全国紙(埼玉版)をはじめ各種新聞をそろえています。大きな閲覧台で誰でも自由に読みます。新聞コーナーの奥は展示コーナー。埼玉大学にゆかりのあるさまざまな企画展が行われます。

### 1階 図書館事務室の皆さん



いっぱい利用して  
くださいね。みなさんの  
来館をお待ちしています!

## 2階



### セミナー室

セミナー室は24席と30席の2室。ブルーレイディスクプレイヤー、マイク、舞台が設置され、講演会にも利用できます。



### ラーニングコモンズ

北側には丸いテーブルに36席、広い空間で隣の人を気にせず勉強できますね。南側には四角いテーブルに45席、テーブルと椅子は自由に組み合わせて使えます。



### 情報端末コーナー

情報端末20台、CD-ROM端末1台が自由に使えます。検索やレポート作成に便利ですね。A3、A4対応プリンタも設置していますが、これだけは有料です。



## 3階



### グループ学習室

12席の学習室が3室あります。電子黒板、貸出用ノートパソコンを用意しており、プレゼンや演習に使うと便利です。



### ラーニングコモンズ

座席数85、ユニークなデザインのテーブルと各テーブルにホワイトボードを設置。ここでもテーブルと椅子の自由な組み合わせができます。



### 国際交流コモンズ

外国人留学生や海外へ留学する学生のための図書資料が用意されています。ソファでくつろいだ気分で国際交流ができるそうです。



### 官立浦和高等学校記念資料室

埼玉大学の前身、旧制浦和高校時代からの資料が展示されています。パンカラな雰囲気が漂っています。



## Up クローズアップ

## Close Up 02

## 特色ある授業 – 自主的に学ぶ意識を育む –

# 基盤科目 政治と出会う・ 大学と出会う3

基盤教育研究センター 細井 優子 准教授

埼玉大学ではたくさんの授業が開かれています。そのなかでも学生に自主的に学ぶ術を身につけてもらうアクティブラーニングによる授業は、学生同士のディスカッションが行われ活気があります。早速、メリンちゃんが担当教員の細井優子先生にお話を伺いました。



「埼大には、学生同士や教員との関係にも信頼感と安心感があります。そんな環境でいろんなことにチャレンジしてほしいですね。私が18歳に戻ったら埼大に入り直したい」



アクティブラーニングとは、  
具体的にどのような授業  
なのですか？



なぜ、LTDを取り入れたの  
ですか？



学生に効果は  
表れていますか？

ひとことで言えば、授業時間の全部を私が一方的に話すのではなく、ひとつのテーマについて学生同士の話し合いを交えて、一人ひとりが問題提起から結論まで考えるというものです。授業のなかに「LTD（Learning Through Discussion）話し合い学習法」を取り入れた、アクティブ、つまり学生にとって能動的に臨める授業ですね。

半年で3つのテーマを扱い、ひとつのテーマに授業は4回。最初の1、2回は講義形式で、私から背景知識や議論のポイントをレクチャーします。3回目がLTD。受講生をいくつかのグループに分けて、グループごとに自分たちの疑問や学びたいことを見つけてディスカッションします。そして4回目にグループごとに調べてきたことを皆の前で発表、プレゼンテーションします。この4回が1セット、それを3セット行います。学期末のテストはありません。その代り小論文で本人なりの最後のまとめをしてもらいます。

ゼミでは普通に行われる形ですけれど、一般的の授業でLTDを取り入れたのは埼大では私が初めてでした。

埼大に着任当初、大教室で従来通りの講義形式の授業をしていました。でも、学生の反応は鈍く、自分でもやっていてつまらないなあと感じていました。大学としてもこれまで大学教育の主流であった一方的な講義形式を見直し、受け身ではなく自主的に学修する意識を学生に植え付けたいという動きがありました。そのころ、ある学会で久留米大学の安永先生と出会いLTDを教わり、さっそく自分の授業に取り入れてみたのです。



私の専門は国際関係論で、主にシチズンシップやデモクラシーの研究ですけれど、これから社会に巣立ってゆく学生に、社会や職場でのさまざまできごとに対して、良識ある市民としての態度、考える力を学ばせたいと思っています。追従するのではなく当事者意識をもって自分からアクションを起こす意識の喚起、芽を育むことですね。

テーマやクラスの構成によって問題意識の持ち方が違うし、自分の実生活のどこに問題を見出しかによって結論の導き方も毎回違うので、一概に何をもって効果が出たとは言い難いですけれど、意外性に富んで型にはまらない面白さがありますね。一緒に調べましょうというスタンスで私も学生とともに学んでいる気持ちです。

この形式にしてから変化があったと言えるのは、学生のやる気が目に見えて向上していることです。講義とディスカッションでは目の輝きが違いますし、楽しんでいる様子がうかがえます。受け身ではなく主体的にかかわることが、いかに面白いか気づいたのですね。学生のもつ才能を活かすのも眠らせたままにするのではなく授業次第などと私も気づかせてもらいました。



これから受講する学生にも  
気づきがつながってゆくと  
いいですね。  
ありがとうございました。





# 政策提言

知事と学生の意見交換会2015

## 埼玉県と埼大学生の連携で 地域活性化の促進を図る。

埼玉大学の学生が上田埼玉県知事に政策を提言する「知事と学生の意見交換会」は、「若者の感性を県政に活かす」、「大学を生きた学習の場とする」ことを目的に、平成22年から毎年1回開催されています。6回目を迎えた今年も経済学部、工学部からゼミ単位の4グループが提言を行いました。提言を受けられた上田知事から「政策はアイデア、データ、予算が揃うと実現性が高まる」と講評をいただきました。これまでに3つの提言が採用・実現されており、今後も埼大生の新鮮な頭脳と行動力を駆使した提言が期待されています。

### これまでに採用・実現された提言

1. 若者のアイデアによる埼玉の魅力発信  
-大学生のつくる埼玉の魅力発信フリーペーパー「埼友記」-  
平成24年度提言(平成25年度実現)
2. “足進(そくしん)”へ向けた交通アプローチ  
-県内公園のウォーキングコースにカロリー消費量の表示看板設置-  
平成24年度提言(平成25年度実現)
3. 若者への消費者教育の新しい形 ~県が総括する企業と大学との三者連携~  
-埼玉りそな銀行による大学生のための金融・消費者教育セミナーの開催-  
平成25年度提言(同年度実現)



### ●●● 平成27年度の政策提言テーマ ●●●

- |  |  |
|--|--|
| <p>①中小企業の人材確保・定着<br/>(経済学部 江口幸治 准教授ゼミ)</p>               | <p>②農ガール育成による<br/>中山間地域の活性化<br/>(経済学部 斎藤友之 教授ゼミ)</p> |
| <p>③幹線道路と生活道路の分離による<br/>地域交通安全対策<br/>(工学部 久保田尚 教授ゼミ)</p> | <p>④埼玉(さいたま)を和紙文化県に!<br/>(経済学部 松本正生 教授ゼミ)</p>        |

### 参加学生のメッセージ

仲間とひとつのものを  
つくる大切さを  
学びました

もり た ゆ い  
**森田 結衣さん**

経済学部社会環境設計学科3年 斎藤ゼミ  
茨城県立水戸第二高等学校出身



私自身2回目の政策提言参加。昨年の経験を活かし、3年生としての責任をもち中心となって政策提言を進めました。

私たちのグループが全員女性だったこともあり、女性をテーマにした政策内容にしようというところからスタートしました。自分たちだったらどんな利点があればプランに魅力を感じるかを念頭に、さまざまな視点から多くのアイデアを出し、政策として実現できるか考察し、先生から指摘を受けた部分を修正する作業を、ほぼ毎日繰り返しました。当日、最初は心臓が飛び出そうなくらい緊張しましたが、プレゼン終盤には落ち着き、知事をはじめ多くの方々に政策内容を理解していただくことができて、充実感で胸がいっぱいでした。

時間をかけてメンバーとともに真剣に取り組み、ひとつのものをつくりあげるという政策提言は、大学生活のなかでとても貴重な体験でした。また、行政の方々とこのように近い距離でやり取りできる機会を設けていただき、大変感謝しています。

提言参加で、  
コミュニケーション力が  
磨かれた

うめ ぱり ひろ き  
**梅堀 広基さん**

経済学部社会環境設計学科3年 松本ゼミ  
群馬県立桐生高等学校出身



埼玉県小川町東秩父村でつくられている和紙「細川紙」が、昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、私たちは「埼玉を和紙文化県に!」というテーマで提言を行いました。取材で何回も小川町に赴き、職人さんや町役場の方々にお話を伺い、実際に和紙の手書きを体験することで和紙の魅力を実感しました。しかし同時に職人さんの抱えるジレンマや細川紙の販路拡大の難しさも分かってきました。はじめのうちは細川紙をPRするための戦略を考えていましたが、取材を重ねるうちにそんな安易な提案ではダメだと気付きました。実際に提言が実現された場合どのような効果が表れるのか、職人さんにとってメリットは何か、予算に無理はないのかなど、さまざまな視点から検討しました。

政策提言を通して、多方向から情報収集し分析することの大切さ、多くの意見をひとつにまとめる人的調整力が最後は決め手になるなどさまざまなことを学べました。私たちの提言が、埼玉県の和紙文化の発展に少しでもつながればうれしいです。



# 埼大流 国際交流推進活動

Saidai  
international  
cultural  
exchange

## 意外と少ない、留学生と日本人学生との交流。

埼玉大学には毎年500人強の留学生が在籍しています。日本人学生数との比率では全国の大学のなかで上位に入る多さだと思います。しかし、その人数の多さにも関わらず、留学生と日本人学生の友人関係としての交流はあまり活発とは言えません。

私は国際交流会館で留学生の日常生活を支援するRA(レジデンス・アシスタント)を務めている関係で、留学生と接する機会が多く、いろいろな話を直接聞くことができます。留学が終り母国へ帰国する学生からは、学修への満足感や日本の良さ、楽しい思い出が異口同音に語られます。一方、埼大の日本人学生と広く交流ができるかという部分では、物足りない思いをしている人がほとんどでした。

留学生は、留学期間の長短にもよりますが、サークルにでも入らない限り、ほとんどが同じ言葉で話せる留学生同士で集まりがちです。日本人学生は留学生と友だちになりたいと思っていても、接点が少なくきっかけがつくれません。学内で見かけたら誰彼かまわず話しかけることもお互いにできませんから、なかなか輪が広がらないのが現状でした。



## 国際交流活動サークル

Hi-Hive代表 津田賢汰さんに聞く

# 留学生と日本人学生との交流の場 Global Café at Saidai

## 自由に気軽に集まる “場所”をつくろう。

それならば、留学生と日本人学生が気軽に接点を持てるサロンのような場をつくればよいと立ち上げたのが“Global Café at Saidai”です。

最初は2014年度後期から、留学経験のある日本人学生をメンターに、ひとつの交流プログラムとして始めました。徐々に輪が広まり運営母体となる組織が必要になり“Hi-Hive(ハイ一ハイブ)”という公認サークルになったのが2015年10月。同月に生協との交渉で第1食堂2階ラウンジを週1回お借りして“Global Café at Saidai”をオープンしました。

「留学生と日本人学生が気軽に夕ご飯でも食べながらおしゃべりできる場」というのが基本コンセプトです。参加目的は十人十色、いろいろあってよいと思っています。英語の会話を楽しみたい、留学経験談を聞きたい、多文化に触れたい、留学生ならば日本語の上達や友だちづくりなど。初めて立ち寄った人でもHi-Hiveのメンバーが間に入ってケアがあるのでまったく心配ありません。スタートしてまだ2か月、参加者は毎回20人弱、留学生と日本人は半々くらいです。国籍、学部を超えた友だちの輪をもっともっと広げられたらと願っています。



Hi-Hive 代表  
津田 賢汰さん  
工学部電気電子システム工学科4年  
神戸市立工業高等専門学校出身





2015

# 日本で 世界で 活躍する 埼大生！

Saitama  
University  
Congratulations!  
学生表彰

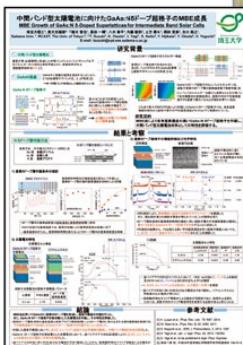
学術研究や課外活動の場で、埼大生が大活躍しています。  
埼玉大学に入学して、先輩たちを手本として頑張ってみませんか。



学長を囲んでの記念撮影

所属	氏名	サークル名等	受賞内容等	大会名等	受賞年月日
理工学研究科	鈴木 智也	——	Young Researcher Award受賞	第6回太陽光発電世界会議(WCPEC-6)	2014.11.27
理工学研究科	濱 大祐	——	Best Poster Award受賞	Asian Aerosol Conference 2015	2015.6.26
理工学研究科	松下 恵理	——	入賞	第2回福島県再生可能エネルギー普及アイデアコンテスト	2015.6.28
教育学部	伊藤 怜	カエトトレーニング	男子59kg級 第3位	第42回全日本学生パワーリフティング選手権大会	2015.7.12
教育学部	阿河 夢斗	柔道部	男子66kg級 優勝	関東学生柔道選手権大会	2015.8.29
教育学部	小林 祐充	柔道部	男子73kg級個人の部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会柔道競技	2015.8.26
教育学部	稻毛 ゆか	柔道部	44kg級 第3位	平成27年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	2015.9.12

SEARCH 鈴木 智也



◀鈴木さんの研究ポスター

すず  
き  
とも  
や  
**鈴木 智也さん**

大学院理工学研究科  
数理電子情報系2年  
宮城県立仙台第二高等学校出身

第6回太陽光発電世界会議(WCPEC-6)  
Young Researcher Award受賞



考えが行き詰ったときはクロスバイクで疾走。  
頭がからっぽになると、そこにフッとアイデアが。

太陽の光をあてただけで発電できて時計やさまざまな機械が動く。なぜだろう？  
不思議だと思いませんか？ 高校生のとき、いろいろな場面で太陽光発電が注目を集めることをみて、すごいなと思うと同時に、「なぜそれが可能なのか？」と知りたい欲求に駆り立てられました。その想いがいまの研究に携わるきっかけです。埼大を選んだのも太陽電池の研究に高い実績があると知ったからです。

現在、光を集めて発電する効率は40%が限界といわれ、そのエネルギー変換効率を上げ、発電コストを下げる課題に向け、世界中の研究者・技術者がしのぎを削っています。効率を上げるために太陽電池の材料または構造を変える方法があります。私たちは光のエネルギーを吸収し電子を発生させる材料に着目し、ガリウムひ素に窒素をドープ（ごくわずか周期状に添加・配列）したもの『GaAs:Nドープ超格子』を

形成、それを何層（バンド）があるなかの中間バンドとして入れる方法を採用しました。窒素の層を入れることで効率が良くなることはわかっていたのですが、安定感に欠け、どのように形成させたら良いか、試行錯誤の末たどり着いたのがドープ超格子でした。シミュレーションでは平均窒素濃度が3%のときに変換効率60%を超える数値が表れています。しかし実際MBE装置で試料をつくってみると、いまの私たちの技術では濃度1%強が限界でした。それでも、フォトリフレクタンス装置で得られた実験データは、ドープ層の中間バンド挿入が従来の太陽電池をはるかに上回る変換効率をあげると期待されるものでした。「なぜ？」がきっかけで研究開発の道を進み、その結果うまれた技術が世の中の役に立ち、それを見た子どもたちがまた「不思議」を感じて研究の世界に歩みだす。そんな連鎖ができたらうれしいですね。

所属	氏名	サークル名等	受賞内容等	大会名等	受賞年月日
教育学部	森田 朝子	柔道部	70kg級 第3位	平成27年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	2015.9.13
教育学部	酒向 亜矢香	柔道部	女子52kg級個人の部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会柔道競技	2015.8.26
教育学部	趙 瞳熙	柔道部	女子63kg級個人の部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会柔道競技	2015.8.26
経済学部	弓部 郁実	柔道部	女子70kg超級個人の部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会柔道競技	2015.8.26
理学部	児玉 優太	水泳部	男子200m個人メドレー 優勝 男子400m個人メドレー 優勝	第62回東部地区国公立大学選手権水泳競技大会	2015.6.20・21
			男子400m個人メドレーの部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会水泳競技	2015.8.29
教育学部	河又 紀三	水泳部	男子200m個人メドレーの部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会水泳競技	2015.8.30
教育学部	末綱 さや	水泳部	女子200m個人メドレー 優勝 女子400m個人メドレー 優勝	第62回東部地区国公立大学選手権水泳競技大会	2015.6.20・21
理学部	山田 幸輝	陸上競技部	男子5000mの部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会陸上競技	2015.8.18
工学部	小林 秀輔	陸上競技部	男子走高跳の部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会陸上競技	2015.8.19
教育学部	江口 琴美	陸上競技部	女子200mの部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会陸上競技	2015.8.19
			女子200m 第3位	第84回日本学生陸上競技対校選手権大会	2015.9.13
		弓道部	男子団体の部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会弓道競技	2015.8.26
		柔道部	男子団体の部 優勝、三大会連続優勝	第64回関東甲信越大学体育大会柔道競技	2015.8.25
		ダンス部	NHK賞 受賞	第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 創作コンクール部門 大学の部	2015.8.8
		陸上競技部	女子 4×100mリレーの部 優勝	第64回関東甲信越大学体育大会陸上競技	2015.8.19

SEARCH 陸上競技部



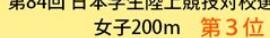
## 埼大は文武両道のお手本。 陸上も勉強も、仲間と励ましあって 伸ばせる環境がある。

えぐち ことみ  
**江口 琴美さん**  
教育学部保健体育専修1年  
私立昌平高等学校出身

第64回 関東甲信越大学体育大会  
陸上競技 女子200m 優勝



第84回 日本学生陸上競技対校選手権大会  
女子200m 第3位



お医者さんの診断は「重い骨膜炎だね」。大学に入って初めて出場を予定していた大きな競技会、全日本選手権(6月)の約1か月前のことです。出場を見送るかどうかギリギリの選択を迫られましたが、私のなかで諦める気持ちはまったくありませんでした。まだ間に合う、そう確信するだけの経験が高校時代の私にあったからです。あせらず、無理せずできるトレーニングだけをやっていく。取り組んだのは、痛めた部分以外の筋トレ、それも走っているときに動く筋肉をイメージして集中的に鍛える筋トレです。大会前1週間は、患部の状態を見ながら走り込みをかけ、なんとか出場できる状態までもっていくことができました。結果は女子200メートル決勝に進み5位入賞。その勢いをもって、今回の表彰対象となった、関東甲信越大学体育大会(8月)200メートル優勝、全日本インカレ(9月)同3位という成績を収められまし

た。目標としていたタイムに届かず、やり遂げたとは言えませんけれど、故障・リハビリ中に、支え、励ましてくれた陸上部員や学科のクラスメイトに恩返ししてきたかなと思っています。

陸上競技は自分の記録との闘いです。だからといって練習もひとりで黙々とやるというのではなく、仲間と一緒に励ましあいながら練習しています。競技会でも、招集所からトラックに向かうとき、「頑張って!」「だいじょうぶ!」と声をかけて笑顔で送り出してくれる仲間がいる。それだけで追い風1.5メートルの気持ちになれます。埼大1年目でこの成績を上げられたのも仲間に恵まれたからだと感謝しています。来年はもっと期待に応えられるように万全のコンディションで試合に臨み、リオ五輪を目指したいです。



THE MESSAGE  
FROM  
A GRADUATE

活躍する卒業生からの  
メッセージ

# 探訪

洋画家  
**岩井 綾女**  
Ayame Iwai

学生生活は自由気ままに楽しく美術に没頭し、充実した毎日を過ごしていました。初めて売れた絵は、むつめ祭での似顔絵、1枚300円。その後油彩画も売ったのですが1枚500円。値付けの基本も知りませんでした。

## PROFILE

埼玉県熊谷市生まれ  
2005年3月 私立本庄第一高等学校美術コース卒業  
2005年4月 埼玉大学教育学部美術専修入学  
2009年3月 同 卒業  
2011年3月 上越教育大学大学院芸術系コース美術修了

### 受賞&展覧会歴

2006年 フィレンツェ賞展入選 08年(新潟)  
2007年 二紀展入選 08.09.10.12.13.14年(東京)  
2008年 越後湯沢全国童画展入選  
2013年 アールデビュタントURAWA2013(伊勢丹浦和店)  
2014年 イレブンガールズアートコレクション展(阪神百貨店梅田店)  
2015年 イレブンガールズアートコレクション展(池袋東武百貨店)  
春のアート展 花ひらくとき(伊勢丹浦和店)  
個展~緑のうわ風~(伊勢丹浦和店) 他多数

### 展覧会 スケジュール

#### 「心ここに暦とともに」

会期:2015年12月28日(月)～2016年2月6日(土)  
会場:銀座・伊東屋K.Itoya B1 FRAME

#### 「EGC広島展」

会期:2016年2月4日(木)～10日(水)  
会場:広島福屋八丁堀本店7階美術画廊

他の展覧会情報および作品等詳細はこちらのホームページをご覧ください。  
<http://iwaiayame.jimdo.com/>

画家とは自分と対峙する仕事。  
でも、絵を描くことで  
社会とつながる、  
絵を買っていただくことで  
社会に認められる。

### 教育学部から教師ではなく、画家の道を選びました。それは?

教育学部だからといって皆が教師になるということもないのですけれど、私の場合、いわゆるプロデビューは埼大卒業から4年の糸余曲折を経た後になります。その間、大学院に行ったり、偶然のなりゆきとはいえ小学校の学童教員や高校の美術専科代用教員を務めたり、絵画制作とは違う仕事をしていました。かっこよく言えば自分を見つめ直していた期間とも言えますが、画家として食べていく自信も勇気も知識もなく、右往左往していたといつていいます。

見つめ直したという意味では、教育現場の経験は画家の道へ背中を押してくれました。短い期間とはいえ生徒と過ごした時間は楽しく、それなりに教えることの面白を感じていました。でも、やはり私の内声は「絵を描きたい」ですから、教師という立場に違和感を感じてもいました。アーティストに専念する決意を促したきっかけは、高校の代用教員の声がかかり受諾の返事をした2013年3月と時を同じく、伊勢丹浦和店でその年の夏に開催される絵画のグループ展『アールデビュタントURAWA2013』への作品展示が決まったからです。いよいよ作家デビューの道が開けかけたのです。しかし難題は展示会までに作品を10点描かなくてはならないことでした。教壇に立つ傍らそれだけの数を仕上げるのは至難の業ですけれど、このチャンスを逃す手はないし、教員も引き受けた以上ちゃんとやらなくてはいけないと、教員は1年限定でその後は絵に専念しようと決意しました。



### プロデビューから2年、感触はいかがですか?

絵を描いてアーティストとして生きていくことについて、つまり稼ぐ術を大学では教えてくれません。プロとしての自分を自分でマネジメントすることをいま学んでいます。先程も言ったように展示会ではグループ展で10点、個展では20点は用意しなくてはなりません。学生時代は年にせいぜい3、4点勉強のために描く程度で、比べものにならないペースです。名の売れた大御所は別として、普通の画家は年間40点は描かないと言えてゆけないのだと『アールデビュタントURAWA2013』に出演を勧めてくれた先輩画家から教えられました。ほかにも展示会の成功3法則。1.メディアに採り上げられる、2.展示会での売り上げ目標を達成し、次回の展示継続を決める、3.新規の仕事を獲得する(別会場の展覧会、イラスト等)、を伝授されました。「芸術家たるもの世間に媚びて絵を売るな」なんて言う人もいますけれど、私はプロというのは、自分が生み出したものに対して正当な対価をいただいて生活できる人のことだと考えます。描いた絵を展示して、見て、知っていただき、共感や感銘を受けたらお金をして買っていただくことで、初めて社会に受け入れられた、認められたと思うのです。「いいね」と買っていただけたときは素直にうれしいです。また、買ってくださった人のために絵を描き続けることも絵を描く理由のひとつです。これから死ぬまで続く長い画家生活の中で、一所に留まるのではなく少しずつでも進化し続ける作品を提示していきたいと思います。絵には答えもないし、完結もない、まずは認められる画家を目指してひたすら描き続ける日々です。



## 落語を通して 笑いの空間を共有する快感、 演ってみるときっとハマる。

### サークル紹介 落語研究会

数ある文科系サークルの中で、何をやっているか語らずとも、これほど分かりやすいサークルはほかにないだろう。プロも輩出した伝統の落語研究会の満を持しての登場だ。たくさんのお運び、まことにありがとうございます。



**永野 卓也**  
Takuya Nagano

教育学部社会専修3年  
埼玉県立越ヶ谷高等学校出身



**岩上 真大**  
Masahiro Iwagami

教育学部社会専修3年  
群馬県立桐生高等学校出身



**神崎 翔太**  
Syouta Kouzaki

教育学部社会専修3年  
山口県立山口高等学校出身

**Q** 落研に入つてよかつたと思うことは?

**A** 永野 人前で話すことが苦にならなくなりました。それに落研に入っているというと、だいたいの人が「へえ!」という感じで興味を示してくれます。初対面の人ともコミュニケーションのつかみがスムーズにできるようになりましたね。

神崎 塙大のなかだけですけど顔が売れました。全然知らない人から「くるくる亭さんだよね」と。だから自然と友達が増えましたね。でも残念なのは落研に入つたら彼女ができると思っていたけれど、彼女いない歴いまの年齢になってしまった。不思議だ。

岩上 お前の存在自体を見たら、不思議でも何でもないね。(笑)(永野うなずく)で、自分はというと、以前は他人と話すのが苦手だったけれど、それを克服するために入部したということもあって、いまは普通に会話でコミュニケーションがとれるようになりました。教育実習で生徒の前で落語をやつたらみんな本当に喜んでくれて、生徒との距離がグンと近くになりましたよ。

永野 それは僕も同じ。教育実習のお別れ会で落語をやって、笑いをとつているのに涙の落語になってしまった。

**Q** これからの落研は?

**A** 神崎 これまで昔からやっていたことを継続すればいいといった保守的な慣習があつたけれど、我々の代でレビュー・リューションを起こしたと思っています。塙大の児童文化研究会とコラボして子ども向けのイベントを行ったり、他大学とのコラボ寄席を打つたり。これを継続して外に開けた落研を築いてほしいですね。

岩上 そう、やっている落語は古典だけれど、運営面では新しいことにチャレンジしてほしいね。落研のこれからとは外れるけれど、個人的には落語はいろいろな意味で自分を変えられる。そこにチャレンジしていくのもいいんじゃないかな。

永野 高座に立つと、落語を通して笑いで社会に貢献している実感があるんです。笑ってもらうことで自分もうれしい気持ちに満たされる。残念なことに「落語」という単語は知っていても、落語の魅力に気付いていない学生がほとんどです。もっと多くの学生に人を楽しませ、自分も楽しい落語の深淵を覗いてほしいですね。

#### ■主な年間活動

- 4月 新歓寄席
- 5月 新入生歓迎会
- 6月 1年生寄席(新入生のデビュー)
- 7月 ときわ寄席(OBを招いて、新人のお披露目)
- 8月~9月 出前高座(老人ホーム、自治会イベントなど)、夏合宿(半分旅行)
- 10月~11月 むづめ祭準備、むづめ祭寄席
- 12月~2月 全国大学落研コンテスト:策伝大賞(岐阜:2月第4週)出場に向け予選審査用ビデオ制作、練習。2月本選出場
- 3月 卒業生の寄席。「5人の会」

※出前高座は年間を通して行っています。



# information

## ■資料請求 [大学案内・学部案内等]

次の方法で入手できます

### 1. テレメールで請求する

ホームページから <https://telemail.jp/?des=033761&gsn=0337655>

携帯電話から

IP電話から



[STEP1] 下記番号に電話してください。

**IP電話 TEL 050-8601-0101**

[STEP2] 資料請求番号(6桁)を入力又はプッシュしてください。

資料名	資料請求番号	発送開始日
大学案内	984352	5月中旬
入学者選抜要項	984353	7月中旬
入学者選抜要項・大学案内	984354	7月中旬
一般募集要項(帰国子女・海外留学経験者・私費外国人入試含む)	984355	11月中旬
一般募集要項(帰国子女・海外留学経験者・私費外国人含む)・案内	984356	11月中旬
推薦入試募集要項	984357	7月中旬
教養学部案内	984358	6月中旬
経済学部案内	984360	6月中旬
教育学部案内	984359	6月中旬
理学部案内	984361	6月中旬
工学部案内	984362	6月中旬

[STEP3] ガイダンスに従って登録してください。

住所、名前の登録時には、ゆっくりはっきりとお話しください。

登録された音声が不明瞭な場合は到着まで時間がかかる場合があります。

一度ご利用になられた暗証番号(4桁)は必ずひかえておいてください。送料をお支払いいただく際に必要になります。

また、テレメールを繰り返しご利用いただく時にも便利です。

テレメールの資料請求方法などについてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (受付9:30~18:00)

### 2. 大学情報センター「モバっちょ」で請求する

携帯電話から



\*「モバっちょ」では、資料請求料金を携帯電話の通話料金と一緒に支払います。

\*携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況により利用できない場合があります。

ホームページから <http://djc-mb.jp/saitama-u/>

「モバっちょ」の資料請求方法などについてのお問い合わせ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター

TEL 050-3540-5005 (平日9:00~17:00)

### 3. 埼玉大学に来学して受け取る

埼玉大学学務部入試課(教育機構棟1階)で受け取ることができます。月曜~金曜(祝日等を除く)9:00~17:00

\*守衛所(埼玉大学正門わき)では、上記の曜日・時間以外にもお渡しできます。

下記の場所でも資料は配付しております。部数が少ないので、電話で確認の後お出かけください。

[埼玉大学大宮ソニックスティカレッジ]

埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ソニックスティビル5F  
TEL 048-647-4323

[埼玉大学東京ステーションカレッジ]

東京都千代田区丸の内1-7-12 JRサピアタワー9F  
TEL 03-5224-8751

## ■入試関連情報 2016年 夏のオープンキャンパス

夏のオープンキャンパスは以下の日程で開催します。

8月8日(月) 教育学部 8月9日(火) 理学部・工学部 8月10日(水) 教養学部・経済学部

事前の参加申込が必要になります。 申込期間 7月7日(木)12:00開始予定

ホームページをご覧ください。

埼玉大学オープンキャンパス情報 ► <http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/open.html>



## 編集後記

2015年10月6日、梶田隆章先生がノーベル物理学賞を受賞されました。本学卒業生初となるノーベル賞受賞者の誕生に、大学中が歓喜に満ちあふれました。また、サプライズゲストとして出席いただいたホームカミングデーでは、梶田先生の温厚な人柄に触れることができました。梶田先生も学んだ埼玉大学は、文系・理系・教員養成系の学部が集まる「All in One Campus」。多様な学生が集い切磋琢磨する環境で、あなたも学んでみませんか。(広報室外室)

Saidai Concierge vol.22 平成28年1月発行

■企画・編集発行 埼玉大学広報室外室

■企画・制作 コスモプリント(株)

■問い合わせ先 埼玉大学広報室外室

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保25

TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057

E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp

URL <http://www.saitama-u.ac.jp>



この冊子に関するご意見やご質問は、  
埼玉大学広報室までお寄せください。